



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済 (11月15~17日)

1. 石油大臣の発言 (17日付テヘラン・タイムズ紙)

ガーセミー石油大臣は、安価な原油の時代は終わったとし、現在の100~108米ドル/バレルの原油価格に満足していると述べ、さらに、原油価格は近い将来上昇するだろうと付け加えた。

2. 米国務省報道官の発言 (17日付イラン・ニュース紙)

米国のトナー国務省報道官は、イラン産原油に依存しないよう、インドおよび中国と協議していると述べた。

3. トウルクメニスタンからのガス輸入停止 (15日付テヘラン・タイムズ紙)

イランはトウルクメニスタンからのガスの輸入を停止すると、11月14日にガーセミー石油大臣が述べ、同国からの輸入が無くとも、現在、ガス不足には陥らないとした。両国はガス購入条件に合意しておらず、合意ができればガス輸入を再開すると同大臣は付け加えた。イランは通常、日量1,500~1,800万立法メートルのガスを輸入しているが、冬季には日量3,000万立法メートルに達する。昨年のBP統計によれば、イランはトウルクメニスタンからガスを年間102億立方メートル輸入し、トルコには年間84億立方メートルを輸出している。

4. ガソリン消費量の減少 (15日付イラン・ニュース紙)

11月3~9日の週におけるイランのガソリン消費量は、日量6,260万リットルであり、先週に比べ4.5%減少した。

5. トウルクメニスタンからのガス輸入の再開 (17日付ケイハーン・インターナショナル紙)

短期間の停止の後、トウルクメニスタンはイラン向けガス供給を再開した。

6. ペルシャ湾における12抗井掘削契約 (17日付イラン・ニュース紙)

イラン海洋石油会社 (IOOC, Iranian Offshore Oil Company) とペトロ・イラン開発会社 (Petro Iran Development Company) は、ペルシャ湾において12抗井を掘削する契約を締結し、契約額は5億米ドルになる。

#### 7. イラン中央銀行総裁による外貨預入要請（17日付ドンヤーイエ・エグテサード紙）

イラン中央銀行のバフマーニー総裁は、イランの家計部門には約120～180億ドルの外貨が蓄えられていると述べ、リヤル安を是正するため、これらの外貨を銀行に預けるよう、市民に要請した。イラン国会のモガッダム予算計画委員長は、家計部門には250億米ドルの外貨があると推定している。

#### 8. イラン航空運賃の上昇（17日付イラン・ニュース紙）

リヤル安の影響により、イラン航空の国際線運賃が105～107%上昇し、国内線は約60%上昇した。